



今回の薬剤散布は主力品種（南水・ラフランス等）の最終防除です。成熟前の病害虫総合防除のため、園の隅々までかかるようにしてください。

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

【有袋・無袋】9月上旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期	9月5日～10日	*南水・あきづき最終散布	◆ 散布日：9月 日
散布薬剤	水	100ℓ	◆ 散布量： ℓ
	展着剤	20ml	
	ストロビードライフロアブル	50g（前日、3回）	
	ダントツ水溶剤	50g（前日、3回）	
対象病害虫	黒斑病、輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類		
散布量	10アール当り：450ℓ以上散布		
注意事項	① 南水・あきづきの最終防除。 ② 有袋栽培：果実袋の破袋後に散布する。よって、今回の薬剤散布前に破袋作業を実施する。 ③ ダントツ水溶剤に代えて、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍（前日、3回）でもよい。		

～ 和梨重点栽培管・南水の収穫について ～

◆ 無袋栽培の防鳥・防蛾対策

- ① 鳥害が多発しています。芳香の強い南水は鳥害を受けやすいので注意してください。
- ② 防鳥ネットの点検。（破損箇所がないようにしましょう。）

◆ 日焼け果（石梨）の除去は収穫前に！

無袋の上向き果を中心に日焼け果が多発しています。この日焼け果を放置しておくと、収穫時には果面が浅黒く、果肉が硬い果実（石梨）になります。この石梨は食味が悪いので、正品及び袋詰め規格にも入りません。収穫前に除去してください。

◆ 南水の適期収穫について *9月残暑により成熟が一気に進む可能性があります！過熟発生にご注意ください。

- ① 満開後145日前後、南水用カラーチャート値2.3の果実を中心に収穫できるようにする。

果皮色は、ていあ部（尻）からこうあ部（軸）に向かって進む。よって、カラーチャートの比色部位は果実の赤道面のやや下側の陰光面とする

【カラーチャート指数2.3】・・・緑色が抜け始め、ていあ部から赤道部にかけて褐色部が30%位

- ② 収穫開始予想：南部地区9月10日頃～、北部地区9月12日頃～ *樹勢や土質によっても前後します。
- ③ 収穫直前の高温により成熟が早まる傾向にあります。外観や食味等総合的に判断して収穫作業に入りましょう。
- ④ 中長期的な販売が可能な果実品質の収穫を徹底してください。また果面が赤茶色状まで進んだ果実は、即売向きと判断し、別コンテナでの集荷を予定しています。

◆ 西洋梨の薬剤散布（9月）は次ページをご覧ください。

◆ **西洋梨**の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

【有袋】9月中旬の薬剤散布（前回より20日後）

散布時期	9月5日～10日 *ラ・フランス・バラード等最終散布	◆ 散布日：9月 日
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10ml ストロビードライフフロアブル 50g（前日、3回） ダントツ水溶剤 50g（前日、3回）	◆ 散布量： リットル
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類	
散布量	10アール当り：600リットル以上	
注意事項	① ラ・フランス、バラード等の最終防除。 ② ストロビードライフフロアブルに代えて、キノンドーフロアブル1,000倍（3日前、9回）でもよい。 ③ ダントツ水溶剤に代えて、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍（前日、3回）でもよい。	

【無袋】9月上中旬の防除（前回から10日後）

散布時期	9月1～5日頃 *バラード等最終散布	◆ 散布日：9月 日
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10ml ベルクートフロアブル 50g（14日前、5回） ダントツ水溶剤 50g（前日、3回）	◆ 散布量： リットル
対象病害虫	輪紋病、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類	
散布量	10アール当り：6000	
注意事項	① バラード等の最終防除。 ② バラード等はベルクートフロアブルに代えて、キノンドーフロアブル1,000倍（3日前、9回）を使用する。 ③ ベルクートフロアブルは、ル・レクチェに薬害を生じるので使用しない。	

【無袋】9月中下旬の防除（前回から10～15日後）

散布時期	9月10～20日頃 *ラ・フランス等最終散布	◆ 散布日：9月 日
散布薬剤	水 1000 当り 展着剤 10ml ストロビードライフフロアブル 50ml（前日、3回）	◆ 散布量： リットル
対象病害虫	輪紋病	
散布量	10アール当り：6000	
注意事項	① ラ・フランス、シルバーベル等の品種の最終防除	

【共通事項】

- ① キノンドーフロアブルを使用する際は、容器の口を下に向けて横に回しながら上下に振り、容器内でよく溶かしてからSS等のタンクへ投入すること。
- ② 葉やけ防止のため、高温時の散布はしない。また降雨が心配される場合は散布を見合わせる。
 葉やけの起きやすい条件：①薬剤散布直後の降雨、②急激な高温、乾燥とその後の多雨等。